

リレー随想

結婚したばかりのころ、それ以前からではあったが、家内はトルストイ研究者である北御門二郎さん(現在八十七歳)の大ファンだった。

「水上村の湯山に、北御門さんという素晴らしい人がいる。私はこの先生の人間性は好きだけど、作品の方は難しくてよく分からない。日本で一番素晴らしい翻訳、という賞をもらっていらっしやるから、読んでみたい」。

真新しい、あまり読んだ気配のないそれらの本は、トルストイ三部作と銘打って、東海大学から出版されていた。「どれがいいかな?」。家内に聞くと「どうせなら、一番長いのがいいよ」。そう言っただけでくれたのが、「戦争と平和」だった。読み切れるだろうかと思ったが、終わって、鳥肌が立つほどの感動を覚えた。

アンドレイを中心にして、父、妹のマリア、息子のニコレンカ。これらの人間関係が、私にとって他人事ではなかった。「アンドレイ、あなたは誰に対して優しいけど、何かしら考え方

湯山行き

土地家屋調査士

田口 一法さん



に傲慢なところがあってよ」。

アンドレイに対する、妹マリアのこの言葉にドキッとすると人は、決して少数ではないと思う。

三月の結婚式には北御門さんにも来ていただいたいて、あいさつをお願いした。桜の時期に氏の家を訪ねたが、このときのことには「今までいろんな人がここに来たけど、新婚旅行にわが家を

選んでくれたのは、あなたたちが初めて「トクサンさん」だった。「あれは新婚旅行だったのかなあ...」。当時、そんなつもりはなかったが、多分そうだったのだろう。

先日、久しぶりに北御門さん方を訪ねて、湯山に行った。「わざわざ、この老人のために...」とおっしゃっていたが、「昨年前に来たときよりは顔色も良く、随分元気になられたなあ」とうれしかった。

「ごぶさたしております。お元気でしたか?」。手をついてあいさつすると、「何だか夢のようです」と奥さんの「モさん(八十七歳)も、ニコニコしながら迎えてくださった。

有機栽培で採れたスイカは、実がしっかりとまっておいしかった。日帰りであまりゆっくりもできなかったが、北御門さんの長男・すすぐさんはじめ、みなさんお元気で、一緒に行った私の家内や子どもたちもそれぞれに、(家族との話を楽しんだ。氏の住まいは、水上村の中でも奥まったところ。実際に住めばいろいろと苦勞もあるのだろうが、訪ねるたびに、いいところだな、またみんなの顔を見に来たいな、と、帰りしなにはいつも元気をいただけて帰っているような気がする。

(熊本市花園、45歳)